

東口再開発がリスタートします

工事費高騰などの影響を受けた東口再開発は、市議会や有識者の検討会、市民の皆さんとの意見交換を積み重ね決定した、見直し方針に沿って進めることにしました。

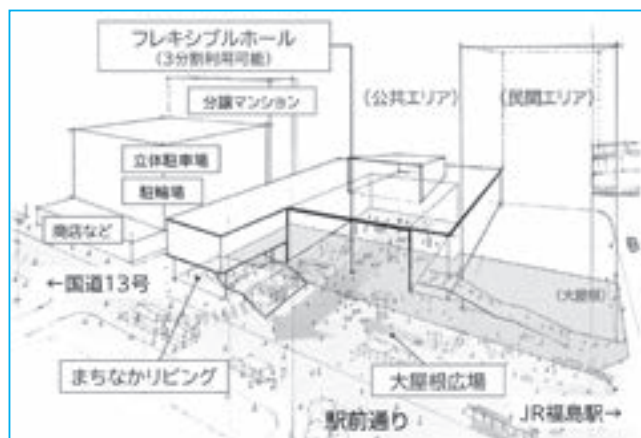
○市の関わり

再開発は、地権者などによる組合が実施する民間事業です。市は、この事業に市の集客・交流拠点施設を組み込んで整備し、完成後に買い取るとともに、国・県と協調して事業費を補助する予定です。

○再開発のねらい

老朽化し耐震不足であった公会堂・市民会館の移転・再整備*により駅前に人が集まる拠点をつくり、新たな人の流れをつくります。分譲マンションやオフィス、飲食店などの商業施設、立体駐車場などの民間供給と合わせて、街なか再生への起爆剤とします。

* 駅前施設と市民センターで機能分担



▲施設全体と駅前通りの鳥瞰イメージ

○見直し概要

再開発のコンセプトを「にぎわい・文化・つながりが生まれる《たまご》=FUKUSHIMA EGG=」とし、公民連携して整備・運営していきます。

全体の規模は縮小しますが、3分割して利用できる平土間型のフレキシブル・ホールは、大屋根広場や駅前通りと一体的につながり、街に開かれた施設になります。

また、まちなかりビル、大屋根広場など、市民が立ち寄り利用できる空間を大幅に拡充します。

＜施設構成＞

公共棟 ⇒ フレキシブル・ホール(最大1,500人収容)、会議室、スタジオ、まちなかりビル、大屋根広場、屋上広場など
(本格的な劇場機能は見送り)

商業・事務所棟 ⇒ 飲食・物産店舗、創造的ワーク・交流スペース(交流機能が充実したインキュベーション施設、シェアオフィス)など
(アパレルなどの物販やホテルは見送り)

住宅棟 ⇒ 分譲マンション100戸程度

駐車場棟 ⇒ 駐車場500台程度、駐輪場200台程度、商店など

＜事業費などの見込み＞ ※設計前のため数値は参考。

全体事業費 ⇒ 550～580億円程度

市施設取得費 ⇒ 250～270億円程度

＜スケジュール＞

令和10年度内竣工、早期供用開始を目指す



◀ 東口再開発に関する特設ページを開設しました。引き続き、各地区の自治振興協議会での説明や、市施設に関するタウンミーティングなども実施していきます。

■問／市街地整備課 ☎525-3763

一方本市は、幕末から生糸の一大生産・集積地であり、経済力の流出が見られる状況です。

都市としてのライバルは、やはり郡山市でしょう。郡山市は、安積開拓以降、県内交通の要衝という優位性もあって急速に成長し、人口は本市を上回り、経済県都と称される経済力を有するに至りました。これまでに二度、郡山市への県都移転の大きな動きもありました。近年は本市から郡山市に事業所等の移転・統合が、最近では大会等の流出が見られる状況です。

7月7日、納豆ウィークのオープニングに「納豆の妖精ねばる君が登場。納豆購入額日本一を競い合う水戸市がある茨城県からの出演でしたが、福島市民の納豆好きをビヨーンと高めるようなエール。ともに納豆文化を盛り上げていこうという友情にあふれていました。

We Love♥
ふくしま!

第72回 「高め合うライバル」



豊かで、県都になり、東北初の日銀出張所も開設されました。市制施行も17年早かったのですが、その後の成長は相対的に緩やか。豊かであったがゆえに守りに入っていたのかもしれない。しかし、人がよく、おっとり気質と言われる本市ですが、郡山市との関係では、「負けたくない」と語る市民の何と多いことか!

ならばこそ官も民も、危機感をもって、主体的かつ積極的に自らの成長につながる実践をしていきたいと思います。勝ち負けより自らの個性を磨きながら、新時代にふさわしい先導的取り組みと広域的に効果が波及する取り組みを進め、「県都としての責務」を果たす必要があります。

一方、いわき市も含めて県内3中核市には、ごみ問題をはじめ多くの共通課題があります。協力し合って課題解決と底上げを図り、県全体を牽引することも重要です。

どの分野においても、ライバルの存在はありがたいこと。互いに高め合いながら切磋琢磨し、そして勝ち負けにとらわれないオンリーワンの個性と誇りをつくっていききたいものです。

福島市長 木幡 浩